

自己の生き方について考えを深める道徳の授業

高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻 指導教官 森 有希
津野町立中央小学校 教諭 横川 理水

【研究の概要】

本研究では、討論型道徳授業が児童にとって自己の生き方について考えを深めていくうえで有効であるかどうか検証することを目的とした。本研究で構想した討論型道徳授業は、討論課題について児童が自身の考えを表明し、互いに質疑応答を行っていくものであり、本研究においては、「2項対立による討論中心の授業」「多項対立から選択する授業」「ステップアップ型討論授業」の3タイプの授業を構想して小学校で実践を行った。本研究の実践と考察からは、討論型道徳授業を構想する際の手がかりにもなる、3タイプそれぞれの特徴（メリット・デメリット）が見いだされた。また、討論型道徳授業によって、児童が自己の生き方について考えを深めるために必要な「主体性」「対話性」「発見・内省」といった意識を高めることができ、討論型道徳授業は、児童が自己の生き方について考えを深めるのに有効な学習であることが示唆された。

【キーワード】 討論型道徳授業 自己の生き方について考えを深める 討論課題

1. 問題の所在と研究の構想・目的

(1) 問題の所在

平成27年3月に誕生した特別の教科である道徳（道徳科）は、小学校学習指導要領に示されているとおり「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」を通して道徳性を養うことを目標としている。この目標に示されているとおり、道徳科がその趣旨を踏まえた学習となるためには、児童が自己の生き方についての考えを深め得る学習が展開されなければならない。しかし、特別の教科化以前の道徳の課題として指摘されたように、教師の一方的な教授活動では、児童が道徳的価値を自分自身に引き寄せて捉え直し自己の生き方について考えを深めていくことは期待できない。自己の生き方について考えを深めるためには、教師と児童との単なるやり取りから脱却し、児童が他者との意見交流などを通して、自分自身との関わりで道徳的価値を見つめ多様な視点から捉え直すことができる主体的・対話的な学習を展開していく必要がある。

(2) 研究の構想・目的

本研究では、道徳科の趣旨を踏まえた主体的・対話的な学習活動として、児童が主体となって価値観を交流させる「討論」に着目した。「討論」によって、児童主体の話し合い活動が展開され、児童がおのずと自身の価値観を見つめ、また他者の考えから新たな視点や異なる視点を得て、道徳的価値の自覚を図って自己の生き方について考えを深めることができると考えたからである。

なお、本研究における「自己の生き方について考えを深める」とは、道徳科の学習として意図されていることを踏まえて、「道徳的価値に対する自身の価値観を主体的に見つめ、また他者との意見交換を行って、新たな視点や異なる視点を得て（発見する）、道徳的価値を捉え直し、自己の価値観を確かなものにしていく（内省すること）」だと捉えている。

そこで、本研究では、ユルゲン・ハーバーマスが「討議倫理学」の中で述べる「討議」(Diskurs)を参考にして、自らの考えを主張し他者と討論する過程で、互いの考えのどこに違いがあり、どこに納得できるのかを考えながら葛藤を経験し、最終的には一人一人が、道徳的価値に関して新たな気づきを得て、自身の考えを内省し、自己の生き方についての考えを深めていくことができる「討論型道徳授業」を構想することとした。この「討論型道徳授業」においては、取

り上げる道徳的価値に即して、児童がいわゆる建前やきれいごと以外の存在、また、対立する価値に気付き、葛藤が起こるような「討論課題」を設定するとともに、「討論課題」に対する各自の意見が何となくとか単に他者を真似てとまらないように主張の理由を述べさせ、互いの質疑応答、そして価値観を揺さぶり、問い直すような教師の発問（揺さぶり発問）を行って根拠となる考えを明確にさせるようにする。

以上のとおり本研究では、「討論」に着目し、児童が自己の生き方について考えを深めることができる討論型道徳授業を構想、実践して、その有効性を検証し、それを基に討論型道徳授業モデルを提案することを目的とした。

2. 方法

(1) 対象

討論については、第5・6学年の国語科や社会科の学習において関連する事項が扱われていることから、本研究では、高学年であるA小学校第6学年児童（14名）を対象とする。

(2) 期間

半年間程度の一程度継続的な期間に討論型道徳授業を行って効果検証を行うこととし、令和2年5月～10月を実践の期間とする。

(3) 実践内容

本研究における「討論」とは、2項もしくは多項対立・選択等の葛藤の場面において自身の考えを表明し、自他の考えの違いに気づいたり共感したりしながら自分の考えを確立していく思考過程を伴った話し合い活動である。この「討論」を学習活動の中心に据えて、主体的・対話的な学びとなる道徳授業を構想する。本研究では、教材と主題に合わせて討論型道徳授業を構想していく中で、次に示す3タイプの討論型道徳授業を構想した。①討論課題に対する二つの選択肢のどちらかを選択して討論する「2項対立による討論中心の授業」、②多項対立から相互理解によりいくつかの項目を選択する「多項対立から選択する授業」、③道徳的価値の理解を深める授業と討論を中心とする授業を段階的に複数時間扱いで組み合わせた「ステップアップ型討論授業」の3タイプである。教材や主題に応じて、これら3タイプの討論型道徳授業を期間中に週1回程度、合計28回行うことを一連のプログラムとして実践することとした。

本プログラムにおける討論型道徳授業は、葛藤を生む討論課題（2項または複数の選択肢から選択する課題）を設定し、児童同士の質疑応答、また教師からの揺さぶり発問を行う学習展開を特徴としている。

① 2項対立による討論中心の授業

現実の問題と関わらせた2項対立の討論課題で授業を構想した例。

教材名「みんなおかしいよ」主題名「広い心で」【相互理解，寛容】

○前回の授業で、いじめがなくなるには、どのような心があればよいと考えたか。

○【討論課題】和花の「本当のことを言ったら、友達が減るのでは？」についてどう思うか。

（選択の理由を言う。質疑応答。）

減る 減らない

○真紀は、絵里子に「ありがとう」を言う前に大きく一つ、深呼吸をしたのはなぜか。

○相手と理解し合うためには、どんなことに気をつければよいか。

・すぐ怒らずがまんする。 ・言い方を変える。

・相手の気持ちを分かってあげる。

〈揺さぶり発問〉本心を伝えるのは怖いことでは？

↓〈価値の深まり〉

- ・お互いに素直に受け止めることで、新しい自分に出会える。
〈補助発問〉 始めの「サンキュー」と、後の「ありがとう」の違いは何か。

(○は発問や活動、・は児童の反応。以下同様。)

②多項対立から選択する授業

道徳的価値に関する複数の選択肢から相互理解を図っていくつかを選択した例。

教材名「世界人権宣言から学ぼう」 主題名「大切な権利」【規則の尊重】

- 人権とは何か。
- 【多項対立】このクラスに世界人権宣言の条文を取り入れるとしたら第何条を入れたいか。クラスのBest3を決めよう。(選択の理由を言う。質疑応答。)
- みんなが世界人権宣言を守れるようにするには、何が必要か。
 - ・思いやり。 ・自分の意見を言う。 ・相手の立場に立つ。
- 〈揺さぶり発問〉きまりを守らせるためには、山ほどきまりがあればよいのか。
- ↓〈価値の深まり〉
 - ・相手も自分も大事にする。 ・自分で判断する。 ・自分も悪いところを直す。

③ステップアップ型討論授業

同一の内容項目について、1時間目には道徳的価値の理解を深める授業を行い、その学習を生かして2時間目以降に討論を行った例の2時間目。

1時間目：教材名「今度は、ぼくの番」 主題名「信じる気持ち」【親切、思いやり】

2時間目：教材名「最後のおくりもの」 主題名「その人のために」【親切、思いやり】

- 前回の学習を通して気づいた思いやりとはどんなことか。
 - ・相手の気持ちを考えて行動する。 ・空気をよむ。 ・自分が嬉しいことを相手に。
- 【討論課題】(前時の考えをもとに)それでは、今回のジョルジュじいさんのとった行動は思いやりと言えるか。(選択の理由を言う。質疑応答。)

言える 言えない

- 2時間を通しての、あなたが思う本当の思いやりとは？
 - ・お互いにいい気持ちになる。 ・相手を知る。 ・思いやりが重すぎてもいけない。
- 〈揺さぶり発問〉感謝されないと親切にしないのか。感謝されるから親切にするのか。
- ↓〈価値の深まり〉
 - ・自分でできることはする。してもらったことには感謝する。お互いに優しさが必要。

(4) 検証方法

討論型道徳授業の効果検証にあたっては、①毎回の討論型道徳授業に対して児童が意欲をもって学習に臨むことができたのかを測ること、②「自己の生き方について考えを深める」ために必要な要素を特定し、プログラムの事前・事後に、その要素の変容を測ること、①②の検証を補完するために、③児童の授業中の発言や学習ノート等から児童の反応を捉えることとした。これら①～③の検証結果を考察して、本実践の効果や課題を捉える。

①道徳「学習意欲」アンケート

毎回の道徳授業において、学習意欲を測るアンケート(4項目5件法)を行って授業の効果を検証する。

②「自己の生き方について考えを深める」道徳意識調査

「自己の生き方について考えを深める」意識の要因を測定するため、先行研究を基に因子分析を行って3因子「主体性」「対話性」「発見・内省」(各3項目5件法)を設定した。本プロ

グラムの事前（5月）・事後（10月）にこの調査を行って「自己の生き方について考えを深める」ことができたのかを検証する。

③道徳授業における児童の反応

①②の検証を補完するものとして、児童の発言やノート等への記述から児童の変容を捉える。

3. 結果

（1）道徳「学習意欲」アンケート

アンケートの回答結果を得点化（5～1点）して平均すると、毎回の授業における学習意欲の平均は全て7割（3.5）を超えており、全28回の平均は4.4となった。また、28回のうち23回目の平均が4.8と最も高く、2回目の平均が3.7と最も低かった（表1）。表1のアンケートの項目は、「1：授業は楽しかった」「2：自分なりによく考えることができた」「3：友達の発表をみんなが真剣に聞こうとしていた」「4：授業で学んだことを自分の生活に生かそうと思った」であり、タイプは、「①2項対立による討論中心の授業」「②多項対立から選択する授業」「③ステップアップ型討論授業」である。

表1：授業に対する学習意欲（5点満点）N=14

回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	平均
タイプ	①	①	①	②	①	②	①	①	①	③	③	③	②	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	③	③	③	①	
項目1	4.4	3.8	4.5	4.1	4.2	4.4	4.5	4.5	4.1	4.5	4.9	4.6	4.3	4.6	4.5	4.6	4.6	4.9	4.4	4.7	4.2	4.6	4.8	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8	4.5
項目2	4.2	3.6	3.6	3.9	3.8	4.4	4.4	4.5	4.1	4.5	4.7	4.4	4.5	4.2	4.4	4.6	4.3	4.6	4.2	4.6	4.1	4.1	4.9	4.4	4.6	4.6	4.7	4.6	4.3
項目3	4.3	3.7	4.0	4.0	4.1	4.3	4.6	4.4	4.4	4.6	4.6	4.6	4.3	4.5	4.9	4.6	4.7	4.7	4.3	4.9	4.3	4.5	4.8	4.7	4.7	4.7	4.9	4.8	4.5
項目4	4.2	3.6	4.1	3.7	4.0	4.4	4.2	4.2	4.2	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8	4.6	4.6	4.7	4.3	4.8	4.4	4.4	4.9	4.6	4.5	4.6	4.7	4.6	4.4
平均	4.3	3.7	4.1	3.9	4.0	4.3	4.4	4.4	4.2	4.5	4.7	4.6	4.4	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7	4.3	4.7	4.2	4.4	4.8	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	4.4

（2）「自己の生き方について考えを深める」道徳意識調査

「自己の生き方について考えを深める」要素として因子分析から見いだされた各因子「主体性」「対話性」「発見・内省」について、3項目ずつ全9項目の道徳意識調査を作成し、その回答結果を得点化（5～1点）してWilcoxonの符号付き順位検定により事前・事後の有意性を検討した。その結果、「主体性」（ $Z=2.51$, $p=.012$, $r=.70$ ）、「対話性」（ $Z=2.83$, $p=.005$, $r=.79$ ）、「発見・内省」（ $Z=2.74$, $p=.006$, $r=.76$ ）の全ての因子で事前に比べて事後の方が有意に高くなっていた（表2）。

表2：事前・事後の中央値（四分位範囲）n=13

	事前（5月）	事後（10月）	
主体性	10.00（8.50－11.50）	14.00（10.50－15.00）	*
対話性	13.00（11.50－14.00）	15.00（14.00－15.00）	**
発見・内省	12.00（11.00－14.00）	14.00（13.50－15.00）	**

* $p<.05$ ** $p<.01$ 得点範囲は3～15

（3）道徳授業における児童の反応

児童は、回を重ねるごとに討論型道徳授業に慣れ、意欲的に考え、発言する姿が多く見られるようになった。特に変容のあった児童は、友達の意見をよく聞き自分の考えと比べながら、例えば「ジョルジュじいさんは、お金を渡さなかったら死んでいなかったかもしれない。自分が死んでもすることが思いやりなんですか」と他者の意見に疑問をもって質問をしたり、「自分

だったら、誰か知らない人からもらったお金は使いにくいから、思いやりではないと思います」と実生活に基づいた発言をしたりと、自分事として考えることができるようになった。

4. 考察

(1) 毎回の授業における児童の学習意欲

全28回の授業の学習意欲の平均は毎回7割の得点を超えており、道徳授業として児童が概ね学習意欲をもって臨めるものになっていたと捉えられる。

全授業のうちアンケートの平均が最も高かった23回目の授業は、「働くとは」をテーマに総合的な学習の時間と関連づけて討論中心の授業を行ったものである。児童は、この授業の前に、地域の農家での職業体験を行っており、この体験によって、今回の討論課題を自分事として捉えることができたものと思われる。その結果、将来の自分の職業を具体的にイメージして実生活にも役立てようという意欲が湧き、得点が高くなったと推察される。この授業以外にも高得点となった授業では、運動会や修学旅行などの体験活動と関連づけ、「実生活との関わり」のある授業を展開しており、児童が討論課題に対して具体的にイメージして考えられる工夫がなされていた。一方、得点の低い授業は、教材の内容や主題の特徴から、自分事として考えさせることが難しいものであった。

こうしたことから、道徳の授業と、総合的な学習の時間、特別活動、他教科との関連を図るなどして「体験や実生活との関わりを深める」ことは、学習内容を自分事として捉えさせ、児童の学習意欲を高めることにつながるであろうことが見いだされた。討論型道徳授業に対する児童の学習意欲を高めるためには、体験や実生活との関わりを持たせ、自分事とさせることが有効であると考えられる。

なお、このアンケートからは討論型道徳授業のタイプ別による学習意欲の顕著な違いは、見いだされなかった。

(2) プログラムの効果

自己の生き方についての考えを深める道徳授業には、「主体性」「対話性」「発見・内省」の要素が必要である。道徳意識調査の結果及び児童の反応から、討論型道徳授業は、この「主体性」「対話性」「発見・内省」を促すことに有効性が見いだされた。

討論型道徳授業は、選択肢があり必ず自身の意思表示ができる。また、意思表示によって自身の考えとの違いが捉えられ、他者の考えを聞いてみたいという意欲が湧く。さらには、児童同士の互いの質疑応答や討論活動に絡めた教師の揺さぶり発問によって、児童が自己の生き方を改めて見つめ直して気付いたことを実践につなげようとする態度が生まれる。こうしたことから、「主体性」「対話性」「発見・内省」の意識が促され、自己の生き方についての考えを深めることができたものと思われる。

(3) タイプ別討論型道徳授業のメリット・デメリット

3タイプの討論型道徳授業の実践を通して、それぞれ以下のおりのメリットとデメリットがあると筆者は捉えた。以下のメリット・デメリットは、討論型道徳授業を構想する際の手がかりとなるものであり、これを踏まえることで、教材や主題に応じた討論型道徳授業の構想や、発展的な形式の授業構想も生まれ、教材や主題に応じたアレンジも可能となる。

① 2項対立による討論中心の授業

メリットとして、葛藤を生む討論課題を仕組むことができれば、より児童主体の学びとなる。また、高学年だけでなく、低、中学年でも発達段階に応じた討論課題を仕組めば討論中心の授業を行うことができると考えられる。

デメリットとしては、教材や主題によっては、討論課題を仕組むことが難しいものもあること、話し合いのスタイルの確立までに時間がかかること、論破を目的としてしまいがちな児童が現れることが挙げられる。

②多項対立から選択する授業

メリットとしては、児童の考えをもとに選択肢を複数立て多項対立させるので、どの教材や主題でも扱うことが可能である。

デメリットは、選択肢が複数あり、葛藤の度合いが低くなってしまうことがある。

③ステップアップ型討論授業

メリットとして、教材や主題によって討論を仕組めない場合に複数の教材を組み合わせて段階的に討論型道徳授業を創れることがある。また、例えば1時間目の児童の考えを生かして2時間目に討論を行うので、児童にとってやらされ感のない、自然な流れの中で段階的に思考の深まりを実感できる授業となる。

デメリットとしては、年間を通してバランスよく内容項目を振り分けたり組み合わせたりする教材配列が難しいことがある。メリットにも関係するが、段階的に児童の考えを発展させていくためには1時間の授業に留まらない、より柔軟な発想での授業構想力が必要となる。

(4) まとめ

本研究では、討論型道徳授業を行って、児童が「自己の生き方について考えを深める」ことができるかどうかを検証した。討論型道徳授業は、討論課題に対しての行動や考え方の選択によって児童主体の学習となる。また、自分とは違う選択肢を選んだ他者の考えを聞いてみたいという意欲も湧いてきて対話的な学習にもなる。さらに、こうした主体的・対話的な学びの中で、思考を揺さぶる発問を加えながら根拠となる考えを明確にさせることで、自己の生き方を改めて見つめ直し、新たな気づきを実践につなげようとする態度も生まれる。こうしたことから討論型道徳授業は、児童が自己の生き方について考えを深めるために必要な「主体性」「対話性」「発見・内省」といった意識を高めることができ、児童が自己の生き方について考えを深めるのに有効な学習であることが示唆された。また、こうした討論型道徳授業に対する児童の学習意欲を高めるためには、体験や実生活との関わりを持たせ、自分事とさせることが有効であることも伺えた。以上、本研究の実践・考察を通して考案した自己の生き方について考えを深める討論型道徳授業のタイプ別授業モデルが表3、4のとおりである。

表3について、「2項対立による討論中心の授業」では、葛藤を生み出す討論課題が重要となる。討論課題は、例えば高学年であれば、二つの道徳的価値から選択させたり、低学年であれば、道徳的価値が実現できる場合とできない場合について自身の立場を表明させ選択させたりするものである。どちらかを選択するという行為は自分事として考えることができる主体的な行為である。また、考えが二分することで他者の考えへの興味が湧き対話が促される。主発問では、討論課題によって考えたことを基に、自分の生き方と関わらせて道徳的価値について考えさせる。ここでは、きれい事と言われるような表面的な考えで終わらせるのではなく、考えを深めたり広げたりするとともに、教師からの揺さぶりの発問を行って、児童の新たな気づきや内省を促し価値の自覚を図っていく。

また、「多項対立から選択する授業」では、児童の考えが選択肢となり、その違いが葛藤を生むものとなるため、選択の理由を考えさせることが重要となる。教材の中で起こっている問題を解決するために「何がいちばん大切なのか」と考えさせる中で、自分との関わりでの主体的な思考活動が展開される。そして、児童が意見を交わし合意を図りながら、互いに納得できるような

理由を導き出していく中で対話性も高まる。導き出した考えが本当に大切と言えるのか、教師の揺さぶりの発問を入れながら再考させ、発見や内省を促し価値の自覚を図っていく。

表4について、「ステップアップ型討論授業」では、複数時間を1セットとして総合的に捉え、児童がどのようにして考えをステップアップさせていくか、2時間を通しての授業の着地点を想定した学習計画が重要になる。討論課題は、1時間目の児童の価値の自覚を基に課題を設定する。児童の考えを生かした討論課題なので、必然的に自分事として主体的に考えるようになる。また、そうした討論課題の選択が対話性を高める。このタイプでも最終的には、討論課題による対話を生かして教師の揺さぶり発問を行う。揺さぶり発問では、例えば、選択肢の共通点や相違点を尋ねることでそれぞれの選択が本質的に何を大切にしているのかを問い直して発見や内省を促し、価値の自覚を図っていく。

以上のことから共通して言えることは、自己の生き方について考えを深める討論型道徳授業の鍵は、児童の思考の流れを予想し、授業の着地点を考え、児童の実態に即して「葛藤を生む討論課題」を設定すること、そして、根拠となる考えを明らかにさせながら思考を深める過程で価値観を問い直し揺さぶっていく「揺さぶり発問」を行うことにあるということである。そこで、これらの授業モデルでは、どのタイプであっても「主体性」や「対話性」を高めることにつながる「葛藤を生む討論課題」、「発見・内省」を促すことにつながる「揺さぶり発問」を組み込んでいる。本研究では、自己の生き方について考えを深める討論型道徳授業モデルとして、これらの要素を取り入れ組み合わせ、発問例なども加えて学習構想ができるように考案した3タイプの授業モデル（表3・表4）を提案できたことが成果だと言える。

表3：「2項対立による討論中心の授業」及び「多項対立から選択する授業」モデル

	2項対立による討論中心の授業	多項対立から選択する授業
導入	*道徳的価値に関して日常生活で葛藤を経験したことを思い起こして問題意識を持つ。	
	<p>*【討論課題】について、二つの選択肢から選択して理由を述べ、質疑応答を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物が迫られている選択について、自分自身ならどうするかを決めさせる。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値が実現できない場合と実現できる場合の選択。(低学年向き) 二つの道徳的価値の間での選択。(高学年向き) 	<p>*【討論課題】について、自分自身の考えに理由をつけて述べ、質疑応答を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の中で起こっている問題等を解決するために、何が一番大切(必要)かを決めさせる。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 何か一つのことに対して、自分が必要だと思うことを決め、決めた理由を基にグループで話し合いをして全体で考えを絞る。(個人→グループ→全体)
展開	<p>*主発問では、討論課題によって考えたことを基に、自分の生き方と関わらせて道徳的価値についての考えを深めたり、広げたりする。</p> <p>(例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・なぜ、〇〇は大切なのだろうか。 ・あなたの思う〇〇とは。 ・〇〇するには何が必要か。 ・本当の〇〇とは何だろうか。</p> </div> <p>・【揺さぶり発問】根拠となる考えを明らかにさせながら思考を深める過程で価値観を問い直し揺さぶって、新たな気づきや内省を促す。</p> <p>(例)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・〇〇の立場だったらどうだろう。 ・続けていくとどうなるだろう。 ・本当にできるのだろうか。 ・考えの違いや共通点は何か。</p> </div>	
終末	<p>*本時の学習を通して、どんなことを考えたか、気づいたかを振り返って価値の自覚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の振り返りからさらに意見交換をさせて価値の自覚を深める。 	

表4：「ステップアップ型討論授業」モデル

ステップアップ型討論授業（同一・関連内容項目での連続した授業）	
1時間目	<p>* 道徳的価値についての理解を深める。</p> <p>* 主発問では、道徳的価値について考えを深めたり、広げたりして価値の自覚を図る。（1時間目の価値の自覚を、2時間目の授業の討論に生かす。）</p>
導入	<p>* 1時間目に考えた価値の自覚について振り返る。</p>
2時間目	<p>* 【討論課題】について、前時で学習した価値の自覚を基に、二つの選択肢から選択して理由を述べ、質疑応答を行う。</p> <p>・ 1時間目の価値の自覚を基に、自分自身ならどうするかを決めさせる。</p>
展開	<p>* 主発問では、前時の価値の自覚や討論課題によって考えたことを基に、自分の生き方と関わらせて道徳的価値についての考えを深めたり、広げたりする。</p> <p>(例) ・ 2時間を通しての、あなたの思う〇〇とは。 ・ 本当の〇〇とは何だろう。</p> <p>・ 【揺さぶり発問】根拠となる考えを明らかにさせながら思考を深める過程で価値観を問い直し揺さぶって、新たな気づきや内省を促す。</p> <p>(例) ・ 1時間目の学習との違いや共通点は何か。 ・ なぜ考えに変化があったのか。 ・ なぜ、そのような違いが生じるのか。 ・ 1時間目の考えは間違いなのか。</p>
終末	<p>* 2時間の学習を通して、どんなことを考えたか、気づいたかを振り返って価値の自覚を図る。</p> <p>・ 児童の振り返りからさらに意見交換をさせて価値の自覚を深める。</p>

(5) 今後の課題

3タイプの討論型道徳授業の効果の差異についてアンケートからは顕著な違いは見いだせなかったが、授業中の児童の発言などからは、タイプ②「多項対立から選択する授業」は、他のタイプに比べて思考を深める発話が少ない傾向にあると捉えられた。対立の構図による葛藤の度合いが低かったためだと推察されるが、この点を詳細に分析し、タイプ別の効果についても今後検証していく必要がある。

また、討論型道徳授業において自己の生き方について考えを深めるためには、例えば、考えを図式化する視覚支援を行って構造的に考えさせるなど発問や活動を工夫することの重要性にも気づかされた。討論型道徳授業に生かす指導方法の工夫についても今後検討していきたいと考えている。

(参考文献)

- ・ 喜納裕子・前原武子（1998）「道徳の授業における発表行動に関する研究—ジレンマ教材を取り入れたディベート的授業の有効性」『琉球大学教育学部教育実践研究指導センター紀要（6）』 pp. 119-138.
- ・ 中岡成文（2018）『増補ハーバーマス コミュニケーション的行為』筑摩書房
- ・ 中尾優貴（2018）「児童の生活と話し合う能力を考慮した『考え、議論する道徳』授業—ハーバーマスのコミュニケーション的行為理論に基づいて—」『島根大学 学校教育実践研究（1）』 pp. 147-154.
- ・ 三島憲一・中野敏男・木前利秋（1991）『道徳意識とコミュニケーション行為』岩波書店
- ・ 渡邊満・押谷由夫・渡邊隆信・小川哲哉（2016）『小学校における「特別の教科 道徳」の実践』北大路書房

①2項対立による討論中心の授業

7月 16日（木）（3校時）	教材名 16 みんなおかしいよ	主題名 広い心で	内容項目 B（11）相互理解，寛容
学習内容			留意事項
<p>○前回の授業で、いじめがなくなるには、どのような心があればよいと考えましたか。 ・思いやりの心 ・親切な心 ・広い心 ・許す心 ・勇氣 ・気づく心</p> <p>○第1発問【討論課題】 和花の「本当のことを言ったら、友達が減っちゃうんじゃないの？」みんなはどう思う？ 減る 減らない</p> <p>○第2発問（最後まで読み終えた後） 短気な真紀は、絵里子に「ありがとう」を言う前に「大きく一つ、深呼吸」をしたのはなぜかな。</p> <p>◎第3発問 相手と理解し合うためには、どんなことに気を付ければよいだろう。 ・すぐ怒らず、がまんする・言い方を変える・相手の気持ちを分かってあげる ↓〈価値の深まり〉伝えるのが怖いなあ ・受け止めて、反省して直す ・お互いに素直に受け止めることで、新しい自分に出会える 補：始めの「サンキュー」と、後の「ありがとう」違いは何かな。</p>			<p>・教材への導入。</p> <p>・友達と、自分との考えの違いに気がつけるようにする。</p> <p>・自分の日頃の生活と結び付けて言えるようにする。できないときもあることを共有し合い、自分の弱さも語れるようにする。</p> <p>・児童の思考の流れを意識しながら、ゆさぶりをかける。</p> <p>・最終段階では、具体で答えられるように、声をかける。</p>

②多項対立から選択する授業

7月 9日（木）（3校時）	教材名 13 世界人権宣言から学ぼう	主題名 大切な権利	内容項目 C（12）規則の尊重
学習内容			留意事項
<p>○人権とは何ですか。 ・人が持っている最低限の権利 ・人を大切にすること ・分からない</p> <p>○第1発問【多項対立】 このクラスに一つだけ世界人権宣言の条文を入れるとしたら第何条を入れたいですか。 クラスのBest3を決めよう！ クラスの考えBest3・第1条 みんな仲間だ ・第2条 差別はいやだ ・第18条 考えるのは自由</p> <p>◎第2発問〈価値の深まり〉 みんなが、世界人権宣言を守れるようにするには、何が必要でしょうか。 ・思いやり ・自分の意見を言う ・相手の立場に立つ ↓〈価値の深まり〉 ・相手も自分も大事にする ・相手のことだけでなく自分も悪いところを直す（平等） ・自分で判断する</p>			<p>・教材への導入。</p> <p>・友達と、自分との考えの違いに気が付けるようにする。</p> <p>・まず、個人で考え、考えたことを基にグループで話し合う。4グループでそれぞれの考えを3つ決める。4つの考えの理由を聞き、最終クラスのBest3を決定する。</p> <p>・合意形成を図りながらの話し合いになるようにする。</p>

③ステップアップ型討論授業

< 1 時間目 >

6月 26日(金)(3校時)	教材名	主題名	内容項目
	10 今度は、ぼくの番	友達を信じるとは	B(7) 親切, 思いやり
学習内容			留意事項
<p>○思いやりをもった行動をとっていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下級生に対して、困った事はないか気遣っている。 <p>○第1発問【討論課題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> テーマ：思いやりとは Part 1 </div> <p>思いやりは、本当に相手に届くのかな。</p> <p><input type="checkbox"/>届く <input type="checkbox"/>届かない</p> <p>◎第2発問</p> <p>「思いやり」とは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えて行動する ・空気をよむ ・自分が嬉しいことを相手に <li style="padding-left: 20px;">↓〈価値の深まり〉 ・積極的に行動する(自分のためでもある) ・「どうしたか?」と聞く ・「そっとする」 ・でも、難しいな 			<ul style="list-style-type: none"> ・教材への導入。 ・黒板にネームカードを貼り、自分の考えを明確にする。 ・友達と、自分との考えの違いに気が付けるようにする。 ・児童の思考の流れを意識しながら、ゆさぶりをかける。 ・最終段階では、具体で答えられるように、声をかける。 ・これからの生き方と絡めて言えるようにする。



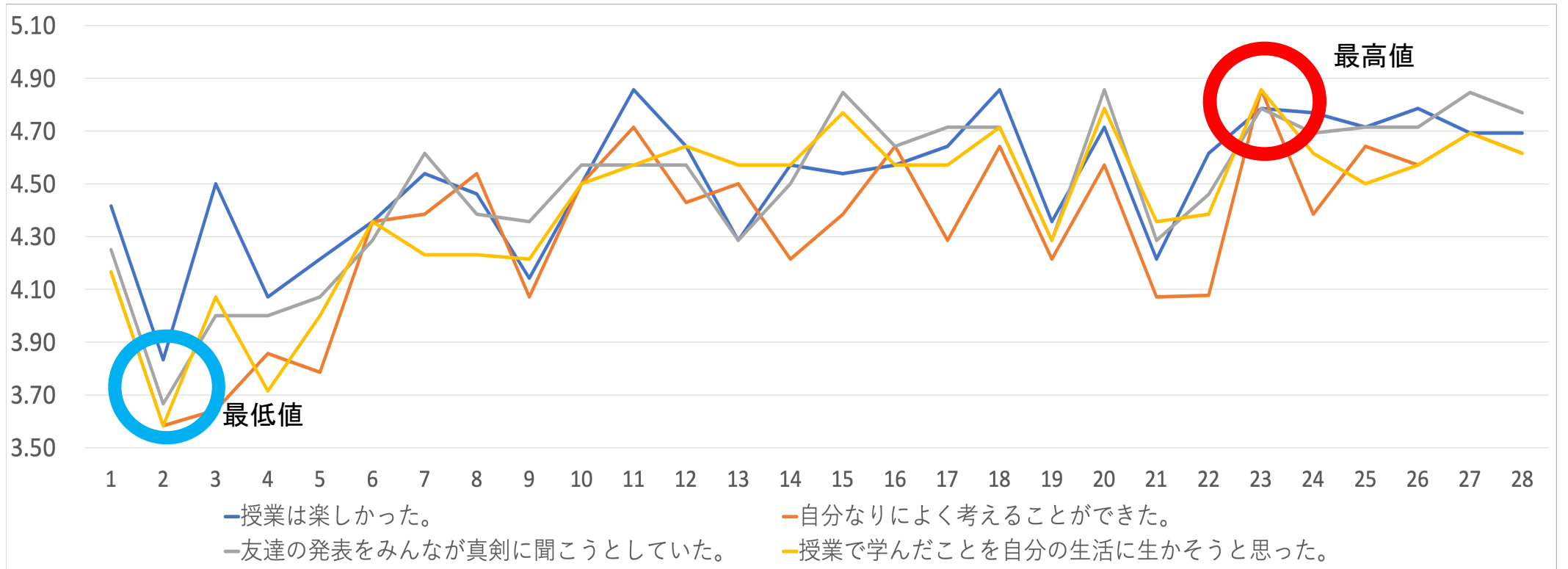
< 2 時間目 >

7月 2日(木)(3校時)	教材名	主題名	内容項目
	11 最後のおくり物	その人のために	B(7) 親切, 思いやり
学習内容			留意事項
<p>○思いやりとはどんなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えて行動する ・空気をよむ ・自分が嬉しいことを相手に ・積極的に行動する(自分のためでもある) ・「どうしたか?」聞く ・「そっとする」 ・でも、難しいな <p>○第1発問【討論課題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> テーマ：思いやりとは Part 2 </div> <p>思いやりとは、〇〇でしたね。それでは、今回のジョルジュじいさんのとった行動は思いやりと言えますか。</p> <p><input type="checkbox"/>言える <input type="checkbox"/>言えない</p> <p>◎第2発問 <1時間目からの価値の深まり></p> <p>では、2時間を通しての、あなたが思う、本当の思いやりとはどんなものだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いにいい気持ちになる ・相手を知る。思いやりが重すぎていけない <li style="padding-left: 20px;">↓〈価値の深まり〉 ・自分でできることはする。してもらったことには感謝 ・お互いに優しさが必要 <p>④補：この思いやりは、自分やクラスにありますか？</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・教材への導入。 ・前時を振り返る。 ・黒板にネームカードを貼り、自分の考えを明確にする。 ・理由をつけて考えが言えるようにする。 ・友達と、自分との考えの違いに気が付けるようにする。 ・相手の意見に対して批判的に聞くよう伝え、質問が出るように促す。

毎回の道徳授業アンケート結果

回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回	25回	26回	27回	28回	平均
実施日	5月28日	5月29日	6月2日	6月4日	6月9日	6月11日	6月18日	6月19日	6月25日	6月26日	7月2日	7月3日	7月9日	7月10日	7月16日	7月17日	7月30日	9月1日	9月10日	9月15日	10月1日	10月6日	10月8日	10月13日	10月15日	10月20日	10月27日	10月28日	
教材名	まどさんからの手紙	ぬくもり	自分を信じて一筋水明子	なれなかったリレーの選手	礼儀正しいふるまい	子ども会のキャンプ	泣き虫	この胸の痛みを	ロレンソの友達	今度はぼくの番	最後のおくりもの	38歳の命の旅 アマモの再生	世界人権宣言から学ぼう	気に入らなかつた写真	みんなおしいよ	手品師	コスモスの花	6年生の責任って?	ここを走れば	修学旅行の夜	ぼくの名前呼んで	ようこそ菅島へ	「働く」ってどういうこと?	頼新の先駆け 吉村彪太郎	55年目の愚返し	マザーテレサ	私には夢がある	星野くん、岡田監督の話	
内容項目	Dよりよく生きる喜び	A個性の伸張	A希望と勇気、努力と強い意志	A節度、節制	B礼儀	Cよりよい学校生活	C公正、公平、社会正義	B相互理解、寛容	B友情、信頼	B親切、思いやり	B親切、思いやり	D自然、命	C規則の尊重	A善悪の判断、自律、自由と責任	B相互理解、寛容	A正直、誠実	B友情、信頼	Cよりよい学校生活、集団生活の充実	C規則の尊重	A善悪の判断、自律、自由と責任	C家族愛、家庭生活の充実	C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	C勤労、公共の精神	A希望と勇気、努力と強い意志	D生命の尊厳	D感動、畏敬の念	C公正、公平、社会正義	Cよりよい学校生活、集団生活の充実	
討論型タイプ	1	1	1	2	1	2	1	1	1	3	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	1		
授業は楽しかった。	4.42	3.83	4.50	4.07	4.21	4.36	4.54	4.46	4.14	4.50	4.86	4.64	4.29	4.57	4.54	4.57	4.64	4.86	4.36	4.71	4.21	4.62	4.79	4.77	4.71	4.79	4.69	4.69	4.51
自分なりによく考えることができた。	4.17	3.58	3.64	3.86	3.79	4.36	4.38	4.54	4.07	4.50	4.71	4.43	4.50	4.21	4.38	4.64	4.29	4.64	4.21	4.57	4.07	4.08	4.86	4.38	4.64	4.57	4.69	4.62	4.34
友達の発表を、みんなが真剣に聞こうとしていた。	4.25	3.67	4.00	4.00	4.07	4.29	4.62	4.38	4.36	4.57	4.57	4.57	4.29	4.50	4.85	4.64	4.71	4.71	4.29	4.86	4.29	4.46	4.79	4.69	4.71	4.71	4.85	4.77	4.48
授業で学んだことを、自分の生活に生かそうと思った。	4.17	3.58	4.07	3.71	4.00	4.36	4.23	4.23	4.21	4.50	4.57	4.64	4.57	4.57	4.77	4.57	4.57	4.71	4.29	4.79	4.36	4.38	4.86	4.62	4.50	4.57	4.69	4.62	4.42
平均	4.25	3.67	4.05	3.91	4.02	4.34	4.44	4.40	4.20	4.52	4.68	4.57	4.41	4.46	4.63	4.61	4.55	4.73	4.29	4.73	4.23	4.38	4.82	4.62	4.64	4.66	4.73	4.67	4.44

(討論型タイプ：1「2項対立による討論中心の授業」、2「多項対立から選択する授業」、3「ステップアップ型討論授業」)



自己の生き方について考えを深める討論型道徳授業モデル

	2項対立による討論中心の授業	多項対立から選択する授業
導入	*道徳的価値に関して日常生活で葛藤を経験したことを思い起こして問題意識を持つ。	
展開	*【討論課題】について、二つの選択肢から選択して理由を述べ、質疑応答を行う。 ・登場人物が迫られている選択について、自分自身ならどうするかを決めさせる。 (例) ・道徳的価値が実現できない場合と実現できる場合の選択。(低学年向き) ・二つの道徳的価値の間での選択。(高学年向き)	*【討論課題】について、自分自身の考えに理由をつけて述べ、質疑応答を行う。 ・教材の中で起こっている問題等を解決するために、何が一番大切(必要)かを決めさせる。 (例) ・何か一つのことに対して、自分が必要だと思うことを決め、決めた理由を基にグループで話し合いをして全体で考えを絞る。(個人→グループ→全体)
	*主発問では、討論課題によって考えたことを基に、自分の生き方と関わらせて道徳的価値についての考えを深めたり、広げたりする。 (例) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ・なぜ、〇〇は大切なのだろう。 ・あなたの思う〇〇とは。 ・〇〇するには何が必要か。 ・本当の〇〇とは何だろう。 </div> ・【揺さぶり発問】根拠となる考えを明らかにさせながら思考を深める過程で価値観を問い直し揺さぶって、新たな気づきや内省を促す。 (例) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ・〇〇の立場だったらどうだろう。 ・続けていくとどうなるだろう。 ・本当にできるのだろうか。 ・考えの違いや共通点は何か。 </div>	
終末	*本時の学習を通して、どんなことを考えたか、気付いたかを振り返って価値の自覚を図る。 ・児童の振り返りからさらに意見交換をさせて価値の自覚を深める。	

	ステップアップ型討論授業(同一・関連内容項目での連続した授業)
1時間目	*道徳的価値についての理解を深める。 *主発問では、道徳的価値について考えを深めたり、広げたりして価値の自覚を図る。 (1時間目の価値の自覚を、2時間目の授業の討論に生かす。)
導入	*1時間目に考えた価値の自覚について振り返る。
2時間目	*【討論課題】について、前時で学習した価値の自覚を基に、二つの選択肢から選択して理由を述べ、質疑応答を行う。 ・1時間目の価値の自覚を基に、自分自身ならどうするかを決めさせる。 *主発問では、前時の価値の自覚や討論課題によって考えたことを基に、自分の生き方と関わらせて道徳的価値についての考えを深めたり、広げたりする。 (例) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ・2時間を通しての、あなたの思う〇〇とは。 ・本当の〇〇とは何だろう。 </div> ・【揺さぶり発問】根拠となる考えを明らかにさせながら思考を深める過程で価値観を問い直し揺さぶって、新たな気づきや内省を促す。 (例) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> ・1時間目の学習との違いや共通点は何か。 ・なぜ考えに変化があったのか。 ・なぜ、そのような違いが生じるのか。 ・1時間目の考えは間違いなのか。 </div>
	展開
終末	*2時間の学習を通して、どんなことを考えたか、気付いたかを振り返って価値の自覚を図る。 ・児童の振り返りからさらに意見交換をさせて価値の自覚を深める。